

報道関係者各位

2017年7月27日

慶應義塾大学 SFC 研究所  
広島県神石高原町

## 神石高原町と慶應義塾大学 SFC が「地方創生に関する連携協力協定」を締結

### — 連携協力事業の第 1 弾として

「神石高原町の地方創生のための高校魅力化+(プラス)プロジェクト」の検討と、  
神石高原町に在住する「地域おこし研究員」の募集・任用を推進します —

広島県神石高原町(町長：入江嘉則)と慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス(SFC)の2学部・1研究科・1研究所(総合政策学部(学部長：河添健)、環境情報学部(学部長：村井純)、大学院政策・メディア研究科(委員長：清木康)、SFC研究所(所長：飯盛義徳)：以下、慶應SFC)は、2017年8月1日、相互に連携協力することで、未来社会を先導する人材育成と、活力ある地域社会の形成、実学の促進に寄与することを目的とする、「地方創生に関する連携協力協定」を締結します。

8月1日、神石高原町にて、神石高原町代表(入江嘉則)と、慶應SFC代表(清木康)による調印式ならびに関係者列席による記者会見を行います。

神石高原町は「挑戦のまち」として、全国各地の地方創生の実践に関わりながら、先駆的な研究開発を行ってきた慶應SFCの協力を得て、全国連携・産官学連携のもと、神石高原町の地方創生に資する研究開発に取り組んでいきます。具体的には、連携事業の第1弾として地方創生において重要となる「高校魅力化」に取り組む「神石高原町の地方創生のための高校魅力化+(プラス)プロジェクト」を検討します。また、同プロジェクト検討の連絡調整、ならびに神石高原町に在住しながら研究開発に従事する「地域おこし研究員」を募集・任用し、慶應SFCの助言・指導を受けながら、協働での研究開発に取り組みます。

## 【神石高原町と慶應SFCによる「地方創生に関する連携協力協定」について】

### 1. 概要

神石高原町と慶應SFCは、地域社会の発展と研究・教育活動の推進、人材の育成等に寄与するため、「地方創生に関する連携協力協定」を締結します。

(目的)

この協定は、神石高原町と慶應SFCが密接な連携のもと、相互に連携協力することにより、未来社会を先導する人材育成と、活力ある地域社会の形成、実学の促進に寄与することを目的とします。

(連携協力事項)

両者は、前項の目的を達成するため、次の事項について連携し、協力をします。

- (1) 神石高原町の地域資源を活用した地域活性化に関すること
- (2) 神石高原町の地域振興に係る研究・教育活動に関すること
- (3) 地方創生や社会イノベーションを担う人材育成に関すること
- (4) 両者の知的、人的および物的資源の活用に関すること
- (5) その他、本協定の目的を達成するために必要な事項

### 2. 協定締結式

日時：2017年8月1日(火)午前10時～ ※ 締結式の後、記者会見を行います。

場所：神石高原ティアガルテン総合案内所ホール(〒720-1702 広島県神石郡神石高原町上豊松72-8)

(園内マップ (<https://jinsekikogen.com/field>)「①総合受付」の建物にお越し下さい)

出席者(予定)： 神石高原町 入江嘉則 (神石高原町 町長)

松本彰夫 (神石高原町議会 議長)

馬屋原健治(神石高原町教育委員会 教育長)

森重純也 (神石高原町 副町長)

慶應SFC 清木 康 (大学院政策・メディア研究科委員長)

古谷知之 (総合政策学部教授・学部長補佐)

鈴木 寛 (大学院政策・メディア研究科教授、文部科学大臣補佐官)

玉村雅敏 (総合政策学部教授、SFC研究所社会イノベーション・ラボ代表)

### 3. (参考)「神石高原町の地方創生のための高校魅力化+(プラス)プロジェクト」について

地方創生には様々なテーマがあり得ますが、「高校魅力化」は特に重要な観点となります(図参照)。

そこで、神石高原町と慶應 SFC の連携協力事業の第一弾として、神石高原町に立地する、地域にとって大切に不可欠な県立油木高等学校や「油木高校を育てる会」等との連携も見据えて、「さらなる高校の魅力化」と「地方創生の促進」の相乗効果を追求する「神石高原町の地方創生のための高校魅力化+(プラス)プロジェクト」を検討します。

#### 「高校魅力化」は地域の持続性に影響する「地方創生の重要なテーマ」

##### 〈地方創生にとっての高校魅力化の重要性〉

##### (1) 地域での子育てや教育の希望を叶える & 新しいひとの流れをつくる

高校の統廃合に伴い、高校進学のために保護者を伴う転出や将来を見据えた子育ての転出が促される一方、高校魅力化が進むと、転出抑制に加えて、高校に魅力を感じた転入の可能性がある

##### (2) 地域における自治活動の持続性を高める

高校の統廃合による若者の転出は、地域の自治活動の機会を減少させる

##### (3) 地域の文化や産業の継承機会を増やす

高校の統廃合によって、学校での行事や部活、若者の地域活動などを通じた地域の文化や産業を継承する場がなくなり、地域の特性が失われていく

##### (4) 地域住民が出会い、協力し合う機会を増やす

学校行事がなくなると、地域住民どうしの関わりが減少することとなり、地域のつながりが減退する

##### (5) 学校や同窓会への愛着を醸成する

高校の統廃合によって、高校や同窓会、地域の教育に対する愛着や意識を薄れさせてしまう

高校魅力化への挑戦は“地域の未来を共創”することができる重要なテーマ

**→地域活性化・地方創生における社会課題にアプローチする  
高校魅力化プロジェクト**

資料提供：藤岡慎二(高校魅力化プロジェクト・慶應義塾大学 SFC 研究所上席所員)

慶應 SFC では、神石高原町の受け入れ体制が整い次第、以下のチームで活動をする予定です。

総括：玉村雅敏(総合政策学部教授)

担当：藤岡慎二(高校魅力化プロジェクト・SFC 研究所上席所員)

連絡調整：地域おこし研究員(募集・任用予定)

支援助言：鈴木 寛(大学院政策・メディア研究科教授)

横田浩一(大学院政策・メディア研究科特任教授)ほか

### 4. (参考)神石高原町「地域おこし研究員」の任用

神石高原町では、慶應 SFC (SFC 研究所社会イノベーション・ラボ) や鹿児島県長島町などが提唱・推進する「地域おこし研究員」の導入・任用を検討します。同制度は、総務省「地域おこし協力隊」制度等を活用し、地域に在住しながら、地域の地方創生に資する実践的な研究活動を行う大学院生等を対象に、自治体の選考により任用するものです。

慶應 SFC では、大学院政策・メディア研究科(社会イノベータコース)にて、遠隔と対面の助言や研究指導を行い、実践的な研究成果を達成できるように支援します。また、各種の講義や演習を E ラーニングやビデオ会議のシステムを用いて、遠隔受講できるようにすることや、現地での実践的な研究活動を行いながら学ぶからこそ、効果的に学習できる授業設計を行います。

神石高原町での「地域おこし研究員」は、まず「高校魅力化+プロジェクト」検討に関する連絡調整を担当することを想定しています。あわせて、慶應 SFC の指導・助言のもと、連携協力協定の趣旨に従い、研究員が自ら設定したミッションのもと、神石高原町に資する研究開発プロジェクトにも挑戦することも期待しています。

#### 〈本件に関する問い合わせ先〉

■ 神石高原町 まちづくり推進課(電話) 0847-89-3332 (担当：矢川)

■ 慶應義塾大学 SFC 研究所 社会イノベーション・ラボ(電話) 03-4590-0444  
(E-Mail) tama-lab@sfc.keio.ac.jp (担当：菅井・稲垣)